

「主の復活の恵み」マタイ28：1-20 堀田修一

19・4・21

先週の受難週に続き、今日は、主イエスの復活を祝う日＝イースター（復活祭）礼拝です。又当教会としては、召天者記念礼拝です。主イエスは、2千年前の先週の金曜日に、私達のすべての罪を負い、身代わりに十字架で死に、私達の数えきれない罪をすべて償って下さいました。そして、葬られ、日曜日の朝に、死に勝利し、復活されました。

### I 主の先行する恵み

「主イエスは、私たちの背きの罪（私達の心にある憎しみ、恨み、ねたみ、陰口、悪口、不品行、うそ等の悪い心の罪）のゆえに死に渡され、私たちが義と認められる（私達の罪がすべて赦され、神と正しい関係になり、神と幸いな交わりができる）ために、よみがえられた」ローマ4：25

### II 神である主イエスの復活による私達の最大の敵である死への勝利

『死は勝利に呑み込まれた。』『死よ。おまえの勝利はどこにあるのか』『死よ、おまえのとげはどこにあるのか。』『死のとげは罪であり、罪の力は律法です。しかし、神に感謝します。神は、私たちの主イエス・キリスト（主の死への勝利の復活）によって、私たちに勝利を与えて下さいました』I コリント15：54-57。私達、人間は、皆、死が怖いです。死んだ後どうなるか分からないからです。※私も、主を信じる前は、死が非常に怖かったです。しかし、主を信じた後は変えられました。私は、教会に行き出し、主イエスを信じたくなくなったのですが、主の復活だけが、どうしても信じられませんでした。科学的に、あり得ないと思ったのです。しかし、教会に通い続けました。ある日、私の心に、御聖霊が働いて下さり、主の十字架だけではなく、主の復活も信じる事ができました。御聖霊は優しく私の心に教えて下さいました。「主イエスは、人々の罪の為に十字架で死ぬ為に、人間とられた。と同時に、主イエスは、神でもあられたので、復活することができたのだよ。神である主イエスには不可能な事はないのだよ」と。

### III 主の復活の恵み

#### 1. この地上での恵み。

①主は、十字架で、死なれたままの神ではなく、今も、生きておられ、いつも、私達と共にいて支えて下さる素晴らしいお方です。私は、主を信じて、45年になりますが、生ける主は、いつも、私と共におられ、私が苦しみ、辛い時、主は、私に寄り添い、私を支えて下さいました。これからも、「彼らが苦しむときには、いつも主も苦しみ、主の臨在の御使いが彼らを救った。その愛とあわれみによって、主は彼らを贖い、昔からずっと彼らを背負い、担ってくださった」イザヤ63：9。※「足跡」の証し。

②「乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満足する（ど

んな事も、すべて主の御手にある事として受け入れる、感謝する)ことを学びました。私は、貧しくあることも知っており、富むことも知っています。満ち足りることに飢えることにも、富むことにも貧しいことにも、ありとあらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私を強くしてくださる方(原語の意味:私に力を注入し続けて下さる方。復活の主、内住の生ける主、いつも共にいてくださる主)によって、私はどんなことでもできるのです(聖書を正しく解釈する時、文脈が大切です。ここだけ読むと、パウロが高慢に聞こえますが、この文脈からの正しい意味は「私は、自分の力によってではなく、復活の主に頼り、主の力により、どんな境遇にあっても、耐える事が出来、苦しい境遇にあっても、すべて神が支配し益として下さる事を信頼し、主の恵みを数え、感謝の心を忘れずに、受け止めることが出来ます」の意)。私達は、ある人は、私より幸運に恵まれているとか、喜びや悲しみは、自分の境遇いかんによると考えてしまいます。しかし、自分の人生の境遇、何が起こるかをコントロールする事は、無理ですが、その境遇にどのように「対処するか」は、復活の主に頼り、選ぶ事ができます。マイナスに捉えるか、プラスに捉えるか?二人の人が、同じ事故の犠牲になったとします。一人の人は、その事故がもとで、恨みをいただくようになります。自らの選択、捉え方により。もう一人の人は、感謝の心を持つようになる事があります。外見上は、同じ境遇であっても、それに対して、どのように対処したかで、残りの人生は、大きく変わります。ある人は自分の力、限界のある愛で対処し、恨み、不平不満、ねたみの人生になります。ある人は、十字架と復活の主を信じ、自分の力、限界のある愛の対処ではなく、復活の生ける主に祈り伺い、力をいただき、どんなに辛い境遇の中でも主に頼り、主の恵みを数え、感謝の心に満ちた人生を送ることが出来ます。復活の主は、あなたを、どんな中でも心が満ち足り、感謝する人生に導かれる素晴らしい主。主を心にお迎えしましょう

## 2. この地上の生涯を終え、死を迎える時

①復活の主を信じているなら、死は、天国への入り口です。

②私達が死ぬ時、私たちの魂は、天国に迎え入れられ、主イエス様が迎えて下さいます。先に天国に行った方々と再会できるのです。

③世の終わりに、主イエスは、再び、この世に来られます。

「終わりのラッパ(主の再臨を示す)とともに、たちまち、一瞬のうちに変えられます(主の再臨の時に、生きているキリスト者は、罪のない心と栄光の体に変えられる)。ラッパ(主の再臨を示す)が鳴ると、死者は朽ちないもの(栄光の体)によみがえり、私たち(主の再臨の時に生きたまま主を迎える者たち)は、罪のない心と栄光の体に変えられるのです」。心から感謝します!